

2025年11月15日 記 稲村 貢

活動報告

～川越街道（新座市）大和田宿の散策～

- 開催日：2025年11月6日（木）（天候 曇り）
- 参加者：25名
- 集合：新秋津駅 9時30分
- ガイド：新座駅 10時00分（出発 10:15）
- 解散：新座駅 12時40分
- 距離：約5キロ
- 案内：新座市観光ボランティアガイド協会

◆ 散策コース

1. 鬼鹿毛の馬頭観音

旧川越街道の大和田字鬼鹿毛に所在する馬頭観音は新座市で最古（元禄9年・1696年）で最大（像高 127cm）の石造馬頭観音菩薩で三面六臂の丸彫りの立像である。
（文化財マップより）



鬼鹿毛の馬頭観音前にて



鬼鹿毛の馬頭観音

2. 大和田氷川神社・熊野神社

氷川神社の縁起によると延暦21年（802年）の創建と言われる古い神社。



右は氷川神社、左奥は熊野神社



氷川神社本殿胴羽目彫刻

本殿は享和年間に再建されたものですが周囲の壁面に見事な彫刻が施されています。作者は浅草の名工嶋村源蔵で「鞍馬山の天狗と牛若丸」ほか二つの題材を透彫りにして刀法の技を見せています。（パンフ「大和田宿をあるく」より）

3. 鎌倉道

氷川神社の北側に「いざ鎌倉へ」と武士たちが駆けつけた道、「鎌倉街道」の名残りと言われている。西に行けば荒川を越えて武蔵一の宮、大宮の氷川神社に通ずるとともに東は国分寺にある国府に向かう往還道であった。

4. 普光明寺・千体地蔵

普光明寺は大同元年（806年）の創建と言われる真言宗の古刹。

山門は享保年間の建立といわれ、棟門と高麗門の形式を取入れつつ全体として薬医門とする設計である。



普光明寺山門



普光明寺千体地蔵堂前にて
鎌倉時代に将軍源頼家が奉納したという千体の地蔵が祀られている。

5. 柳瀬川 ・ 英（はなぶさ）橋

狭山湖・多摩湖の地下に水源をもつ全長約20kmで新河岸川に合流する一級河川。

橋の名前になった「はなぶさ」は江戸時代の画家「英（はなぶさ）一蝶」がこの辺りの風景を描いており、その中に土橋が見られたことからと言われている。

◆ 感 想

今回は参加者を5名ずつの5班に分けて各班にガイドさんが1名ずつつき、主な見学地等について詳しい説明をいただき大変内容の濃い充実した行事になったと思います。

1班担当 太田建紀様、2班担当 中村初枝様、3班担当 中村紀夫様、4班担当 大沢 啓様 5班担当 小松 正様の方々にはこの場を借りて深く感謝申し上げます。

今回の例会で所沢市の隣にある新座市に旧川越街道沿いの大和田宿という大きな宿場町があったということを知りたいたいへん勉強になりました。

そして鎌倉幕府2代将軍源頼家が奉納したと伝えられる千体地蔵は古くから33年に1度しか開帳されないという秘仏ですが、何と今年の4月4～6日にその開帳があり多くの人がお参りに来たということを知り、もう少し早くそのことを知っていたらその開帳で見てみたかったとたいへん残念に思いました。

また、大和田神社では古くからの「大和田囃子」と「はだか神輿」の伝統芸能が今も地域の人々によって引き継がれ開催されているということを知り、大変なつかしく心強く感じました。それというのも私自身子ども頃、故郷の神社やお寺の境内での盆踊りや獅子舞などに参加したり見たりして心躍らせていたことを思い出したからです。

やはり現在の日本は昭和30年代後半からの急速な高度経済成長によって確かに物は豊かで便利な国になりました。しかし、その反面で貧富の格差が広がり相互扶助の心が希薄になってきたように思います。その結果私を含めて日本人は過度な拝金主義の風潮に陥ってしまっていることの反省に立ち、改めてそれまでに培われていた日本人のあたたかな人間関係を大切にする社会にしていかなばと考えさせてくれる機会となりました。

以上